

中国ソーシャル・メディア研究の今 —理論と方法の接合を目指して—

日時：2023 年 3 月 8 日（水）13:00-15:30

開催形式：対面および ZOOM によるハイブリット開催

対面報告会場：早稲田大学 7 号館 203 教室

言語：日本語

共催：早稲田大学現代政治経済研究所世論・メディアデータ研究部会

北海道大学メディアコミュニケーション研究院東アジアメディア研究センター

研究会の主旨と概要

現代の中国を理解するには、ソーシャル・メディアがもたらす政治と社会へのインパクトに着目する必要がある。中国では Weibo（微博）や WeChat（微信）など独自のソーシャル・メディアが普及している。中国共産党・政府はこれらのソーシャル・メディアの内容を統制・検閲しながらも、ソーシャル・メディアを通じて情報を収集し政権へのフィードバックにつなげている。また、人々はソーシャル・メディアで自らの意見を発信し、時にそれは異議申し立て運動として社会の注目を浴びている。このように、現代中国の政治と社会はソーシャル・メディアの発達と密接な関係にある。

2000 年以降中国のソーシャル・メディアに対する研究は主に 2 つの立場に分かれていると言われる。一つはソーシャル・メディアのテキストを大量に収集し機械的に分析しようとするビッグデータ研究である。もう一つは、ソーシャル・メディアを提供するプラットフォーム企業の資本主義的性質に焦点を当てこれを批判する研究である。

しかし、両研究アプローチが指摘するよりも事実はより複雑である。党政府による統制のメカニズムは資本主義的統制のメカニズムと不可分に融合している。例えば、プラットフォーム企業は政府の統制に呼応する形でソーシャル・メディア上の投稿を自主的に削除するなど、プラットフォーム企業と政府の共謀が存在する。他方で、制限された言論空間の中でも、中国共産党・政府に対して、人々はソーシャル・メディアを通じて異議申し立てを絶えず行っている。このように、中国のソーシャル・メディアにあふれるテキストは、党政府と企業による共謀そして人々による抵抗という複雑な要素がまじりあった結果として理解する必要がある。

そこで、本研究会では、現在の中国ソーシャル・メディア研究の今を提示し、理論と方法を接合するための手掛かりとしたい。とりわけ、日本国内で中国のソーシャル・メディアに関する研究は限られており、断片化した研究成果しか発表されていない。そのため、中国のソーシャル・メディア研究発展のための第一段階として、中国のメディアを専門とする研究者 4 名が中国におけるソーシャル・メディア研究の現状報告と実証的研究の成果を報告する。ここから、参加者とともに現代中国におけるソーシャル・メディアと政治・社会の関係を議論し、2 つのアプローチの対話を試みる。

当日のスケジュール

13:00-13:50 第1部 中国ソーシャル・メディアの理論的検討と現状報告

工藤文（日本学術振興会・早稲田大学）

「中国ソーシャル・メディア研究の現在—批判的視座から」

王冰（北海道大学国際広報メディア・観光学院）

「デジタル時代のメディア技術と中国のソーシャル・メディア」

13:50-14:00 休憩（コーヒー・ブレイク）

14:00-14:50 第2部 微博(Weibo)に対する実証分析の成果報告

于海春（早稲田大学現代政治経済研究所）

「Weibo データを活用した武漢の都市封鎖における国民感情変化の分析」

周源（神戸大学大学院法学研究科）

「何が一番敏感なのか？アメリカ大使館の微博に対する検閲」

14:50-15:00 休憩（コーヒー・ブレイク）

15:00-15:30 第3部 質疑応答・議論

報告者と参加者による議論

司会 工藤文

本研究会は以下の研究助成による成果です

科研費 19K13604、21J40094（研究代表者：工藤文）

2022 年度大川情報通信基金研究助成（研究代表者：于海春）

日本学術振興会若手研究助成金（21K17951、研究代表者：王冰）